

ビコロールT 作り方



- 左右に切り替えのあるロンTのパターンです。
長袖・半袖・パフ袖の3種類の袖で作製できます。
- すべて縫い代込みとなっておりますので、切り取ってそのままお使いいただけます。
- 「わ」の表記と指定の数字の箇所以外は縫い代1cmとなり、縫い代は全てパターンに含まれています。
- 袖パターンは左右対称のため、一枚ずつ「わ」で裁断してください。
- なるべくロックミシンの併用を推奨しますが、家庭用ミシンのみでも作製できます。
- 説明文にある「端を処理します」とはロックミシンorジグザグミシンで端をかがることです。

※こちらのパターンを使用して作られた作品については、委託販売・ネットショップ・オークション等、個人の範囲内に限り自由に販売していただいて構いません。

※パターン及び仕様書自体の中古販売・複製販売は、固くお断りさせていただきます。
ご理解、ご協力の程宜しくお願い致します。

★出来上がり寸法(cm)

| | 70 | 80 | 90 | 100 | 110 | 120 | 130 | 140 | 150 | 160 |
|-------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|------|
| [身巾] | 30 | 32 | 34 | 36 | 38 | 40 | 42 | 44 | 45 | 48 |
| [着丈] | 32 | 34 | 36 | 39 | 42 | 45 | 49 | 53 | 57 | 61 |
| 長袖衿丈 | 33.5 | 36.5 | 40.5 | 45.5 | 50 | 54.5 | 59 | 63.5 | 68 | 72.5 |
| 半袖衿丈 | 21 | 23 | 25 | 28 | 31 | 34 | 37 | 40 | 43 | 45.5 |
| パフ袖衿丈 | 19.5 | 22 | 24.3 | 26.8 | 28 | 30.2 | 32.7 | 34.7 | 36.6 | 38.4 |

※出来上がり寸法は型紙を計測したものです。

用意するもの

ニット生地…

天竺ニット、接結ニット、スムーズニット、フライスニット、ワッフルニット、ミニ裏毛などの薄手～中厚手のニット生地

付属生地…

スパンテレコ、スパンフライスなど

★必要用尺(cm) ※160cm幅ニット生地

| | 70 | 80 | 90 | 100 | 110 | 120 | 130 | 140 | 150 | 160 |
|------|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 前後身頃 | 40 | 40 | 45 | 50 | 50 | 55 | 60 | 60 | 65 | 70 |
| 袖+脇布 | 35 | 35 | 40 | 40 | 40 | 45 | 50 | 55 | 55 | 60 |

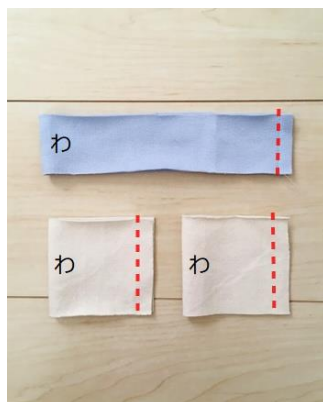
※この他に付属生地が巾×20cm程必要です。

※差し込みで裁った用尺ですので、生地の上方向・柄合わせがある場合はこれより多めに用意してください。

準備

必要があれば、裾・半袖の袖先・スリット箇所・フリルを挟む場合は前身頃端(肩～裾まで)にニット用の伸び止めテープを貼っておく。

【長袖ver】 縫い方手順



①衿リブ・袖リブ(長袖・パフ袖のみ)をそれぞれ中表に折り、端を縫い合わせます。縫い代を割り、表が出るように半分折っておきます。



②前身頃と後身頃を中表に合わせて肩を縫い合わせ、端を処理しておきます。



③身頃と衿リブを中表に合わせて、ぐるっと一周縫い合わせます。端を処理します。(写真を撮り損ねてしまったため別の生地画像ですみません...)



④表に返し、お好みにステッチをかけます。(省略可)
※半袖verとパフ袖verの場合は、この後に仕様書4枚目の袖の縫い方を参照してから⑤に続いてください。



⑤次に、袖の両側に脇布を縫い合わせるためこのように配置します。



⑥袖表側に脇布を中表になるように縫い合わせ、端を処理します。前後左右4カ所同じように縫います。



⑦身頃の肩線と⑥の肩中心を合わせ、中表になるように合わせます。
※フリル付きの場合はここで挟みますので、仕様書4枚目を参照してください。



⑧前身頃裾～後身頃裾まで縫い合わせ、端を処理します。フリル付きの場合はその後フリルを袖側に倒し、ステッチで押さえます。



⑨前身頃のみ、裾端～スリット止まりより5cm程上まで空ロックかジグザグミシンがかかります。
※最後は横に逃げて良いですし、押さえを上げて生地を外しても良いです。



⑩袖～スリット止まりまで直線ミシンで縫い合わせます。(まだ端処理しません)
※スリットを入れない場合は、裾まで縫い合わせ+端処理した後⑮に続けてください。



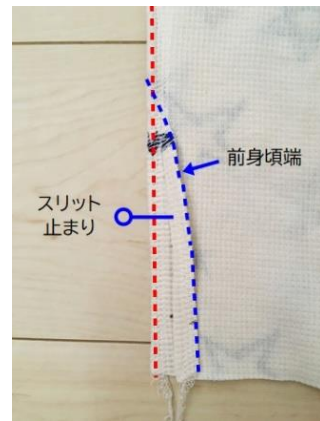
⑪かかった前身頃のみアイロンで押さえます(幅1cm)。画像のように上端は自然に斜めに逃がします。



⑫袖先から後身頃裾までロックミシンかジグザグミシンでかがります。



拡大



⑬前身頃の上端(⑨で逃がしたところ)を縫い込みながらかがります。
※青点線は前身頃端を分かりやすくしたもので、縫うところは赤点線。



⑭アイロンで左右に割り、コの字にステッチで押さえます。



⑮裾を空ロックまたはジグザグミシンでかがります。(スリットなしの場合は一周です)



⑯裏側に1.5cm折り返し、端から2mmくらいのところをステッチで押さえます。
※フリル付きの場合は一気に縫わず、フリルを避けながら数回に分けて縫うと良いです。



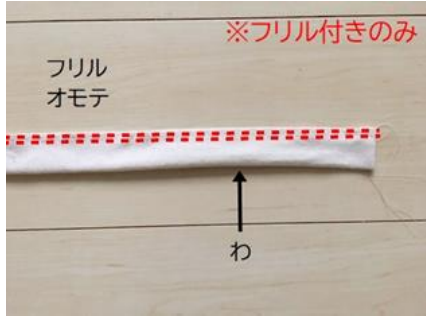
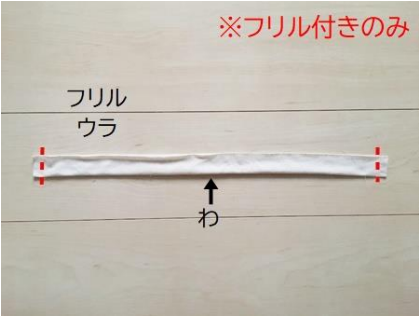
⑰裏返した袖の中に袖リブ(パフ袖リブ)を中表になるよう合わせ、縫い合わせます。端を処理します。



⑱裏返して完成です！

【フリル付き】 縫い方手順

※フリルは1枚を半分に折りたたむため、1枚のフリルより厚みが出ます。なるべく薄手の生地を推奨します。



前身頃パターンに記載されているフリル寸法で裁断します。中表になるように半分に折り、両端1cmのところを縫い合わせます。

表に返し、目打ちなどで端の角を出します。アイロンで押さえた後、「わ」ではない方にギャザー寄せのための粗ミシン2本を掛けます。

糸を引っ張り、下に記載された長さ(付け寸法)に縮めます。これでフリルは完成です。



長袖(半袖)ver①～⑥の工程後、⑦のときにフリルを挟みます。身頃表側にフリルを重ね、上は肩線、フリル中心、下はフリル止まり位置にそれぞれ合わせ、留めます。ずれそうな場合は仮縫いしておきます。 ※身頃端の裏に伸び止めテープや接着芯を貼っておくと縫い伸び防止になります！

フリルを重ねた上に袖+脇布を中表になるよう重ねます。長袖ver⑧の工程に続いてください。

| | フリル付け寸法 |
|-----|---------|
| 70 | 31.2 |
| 80 | 34.2 |
| 90 | 37 |
| 100 | 40 |
| 110 | 43 |
| 120 | 45.7 |
| 130 | 49.5 |
| 140 | 53.4 |
| 150 | 57 |
| 160 | 60.8 |

【半袖ver】 縫い方手順

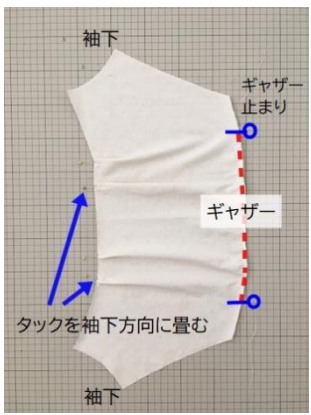
※長袖ver工程④の後に行い、⑤に続いてください。⑩の袖リブ付けは省きます。



半袖の袖先を空ロックまたはジグザグミシンでかがり、1.5cm折り返してステッチで押さえます。

【パフ袖ver】 縫い方手順

※長袖ver工程⑤の前に袖を作っておきます。その後は長袖verと同じ工程です。



ギャザー止まりの間に粗ミシンを2本かけ、ギャザーを寄せます。(寄せる寸法はパフ袖パターンに記載)

110size以上のパフ袖は指定の位置のタック(2~4カ所)を袖下方向へ畳み、袖端から1cm弱のところを縫い留めておきます。